

弟子への決断⑤社会

ルカの福音書14章34-35節

2013,4,7 HKJCF

概観

序)①神は世界を創造し、世界管理の使命を人間に与えた②主は墮落した人間を救い、弟子とし、神の国の使命を与えた

1、塩の譬えの意味 34-35

2、信仰と生活

3、適用

私たちが今、取り組むべきなのはどの点でしょうか？神様により頼み、一歩、一歩前進しましょう あなたは塩なのです

I 譬えの意味

一弟子の信仰の本質と生活

- ①塩は良い物:代用品無く、多用途
- ②塩は他の用途なし:塩気なければ無用
- ③塩気は火による←十字架(マルコ9:49)
- ④弟子は和合←塩は溶ける(同9:50)
- ⑤弟子は教会から世に派遣←塩ツボから(信仰は生活の上に:マタイ5:13-16)
⇒信仰の確立から信仰による生活へ

II 信仰と生活(1)

1、生活に合わせた信仰(社会と妥協)

- ①金持ち(富の偶像化):33 富の用法
- ②サドカイ人(祭司・貴族):親ローマ
- ③人間関係で妥協:26 人間関係の縛り
⇒生活に合わせた信仰は弟子(献身者)の信仰とは言えない 前進がなければ生活に埋没される危険があり、信仰が一般恩寵に吸収される可能性がある
(救済・恩寵>創造・自然・社会 →偶像化)

III 信仰と生活(2)

2、信仰と生活が分離(社会からの逃避)

- ①パリサイ派(+エッセネ派):批判と分離
- ②修道院・祈祷院・神学校・アーミシュ?
 - 1)純粋な信仰・社会への影響力は少
 - 2)塩ツボに入った弟子:やがて塊へ
 - 3)一般恩寵への取り組み・社会的貢献少
 - 4)精神主義信仰 戦術・戦略・政策の欠如
参)占領政策・「菊と刀」・英語禁止
 - 5)緊張感の喪失:独善・傲慢・墮落?

IV 信仰と生活(3)

3、信仰による生活(福音で社会改革)

- ①イエスの弟子たち:召命・献身・派遣
- ②塩として社会に派遣:信仰・賜物・使命
- ③神の国の占領政策で一般恩寵を変容
⇒私たちが占領しなければサタンが支配する 救済(特別恩寵)の神は創造の神でもある 一般恩寵・世界はうめいている(ローマ8:22) 弟子は社会への宣教師
カルバンの神学と近代社会
メガC→セルC→エマーシングC